

SMC金融・経済マーケットレポート

Reporter Your Financial Brain SMC 豊島 健治

e コマースの意味するもの (歴史に学ぶIT革命)

インターネット・ビジネス・ウェイと題したレポートを4回に渡って発信したのは97年1月から2月にかけてのことだった。あれからもう4年の歳月が経とうとしている。今改めてそれを読み返してみると、インターネットに触れて間もない私を感じていたあの当時の興奮が伝わってきて気恥ずかしい気持ちになってしまう。鼻奥目に云って、そこに書いてあることの半分は実現しているが半分は単なる興奮に過ぎなかった。

最初は出来ることの大きさにビックリした。そして次に誰でも低価格で参入できることに大きな可能性を感じた。時間軸と空間軸の革命的縮小は、都市と田舎の垣根を取り払い、世界と日本の壁を簡単に乗り越えられるように思えた。これは革命だ！そう思ったのである。そして私を感じたと同じような興奮や夢や希望が、燎原の火のように世界に燃え広がり、米国で、日本で、そして世界各地でネットバブルを引き起した。人間というものには想像力を無限に拡大出来る存在である。「根拠無き期待」があつという間に広がったとしても、それを誰が責めることが出来ようか。

しかし「賢者は歴史に学び、愚者は経験に学ぶ」(英国チャーチル?)と云う。私は決して賢者ではないが、ネットバブルの残骸を単に冷たく見放すのではなく、バブルがはじけた今だからこそインターネットの持つ歴史的意味を考える必要があると思うのだ。

今、国を挙げて「IT革命」などと喧伝しているが、何所となく空々しく感じるのは私だけであろうか。そのIT革命とは何か、私には良く分らない。分っていることは、テクノロジーの進歩により私達は非常に便利な道具を手に入れることが出来た、あるいは出来つつあると云うことではないか。そう、インターネットを中心とするITは道具であり、それ以上でもそれ以下でもない。

歴史的な視点で見れば、人類は幾度か革命的な道具を発明している。原始時代の農耕具から始まって、中世の印刷機、そして近代から現代に至るまでの蒸気機関、電話、鉄道、自動車、TV等々。これらの道具は、しかし私達の生活は勿論、経済社会の有様を一変させる力をもった道具だった。今時、電話や車も使わないでビジネスを行っ

ている会社はない。それと同じ意味で、やがてインターネットを利用しないで経営する会社はなくなる。やがてどこにでもある当り前の道具となる。ただ道具が世の中に現れた時、それが正当に評価されるとは限らない。過大に評価されたり、過小評価されたりする。要は分らないのだ。

20世紀初頭、米国に1,500社を超える自動車会社が生まれたと云う。自動車の持つ限りない未来に夢を託して起業家が殺到した。しかし、生き残った会社はご存知のようにビッグ3だけで、後は露と消えた。新しい革命的な道具が出現した時、気鋭の人は争って新事業に参入する。そしてその多くは退散して行く。それは避けられない私達人間の性のようなものだろう。今次のネットバブルと云われる現象は、1世紀前の自動車産業を巡る動きと同じで、今後ネットビジネスに参入した多くの新興企業はおそらく敗れ去って行くだろう。参入自体は意義ある行動であったが、敗れ去るのも又必然なのだ。

とは云え、インターネットが革命的な道具であることに変わりはない。それはビジネスの在り方を、そして政治や社会の様相を一変させてしまう可能性がある。特にeコマースと呼ばれる分野では、予想もつかない変化が起こるような気がする。その内実を思い描くことは難しいが、しっかりと認識しておくことは必要だ。パソコンをいじったりネット操作をしたりすることが重要なのではなく、それが何を齎すのかが重要なのだ。

重要と思われる点を三つほど挙げてみる。一つは地理・距離の消滅である。それによってローカルな中小企業さえグローバルな競争下に組み込まれる。二つは、時間の稀少化である。人の持つ限られた時間が益々価値を持つようになる。そして更には、知識の持つ意味の変化によって仕事のやり方が変わってしまう可能性がある。

その意味で、この新世紀は私達人間に大きな変革を迫るだろうが、人間の特質である夢や希望を失わずに前へ進みたいものである。

§お知らせ§

過去3年間、前年のレポートを小冊子に纏め配布して参りましたが、昨年度分は作成配布致しませんのでご了承下さい。ネット上で3カ月前迄の分を閲覧・ダウンロード出来るようにしておりますのでご利用いただければ幸甚です。

Weekly Fax Report

《複製・転載等のご連絡下さい》

URL: http://www.hi-ho.ne.jp/smc_toyo/

TEL. 0438-53-6092 FAX. 0438-53-6096

Email: smc_toyo@hi-ho.ne.jp

2001.1.13(第240号)